

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ : 移民・難民・外国ルーツをもつ人々の状況について学ぶ

科目名 : 演習Ⅲ・Ⅳ

担当教員 : 舟木 律子

調査先 : 移住者と連帯する全国フォーラム2025 in 北関東 (会場: 群馬県高崎市ビエント高崎)

調査日 : 2025年6月21日(土)

参加学生数 : 1年生 名 2年生 名 3年生 名 4年生 5名

調査の趣旨 (目的)

「特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク」主催の年次フォーラム「移住者と連帯する全国フォーラム2025in北関東: 地域から作り出す多民族・多文化共生社会」に参加する。同団体は、国内の移民問題を扱う研究者・実務家・支援団体により構成される。フォーラムでは、クルド人問題および外国人差別の法的側面の最新動向に関する基調講演に続き、労働問題(技能実習・特定技能)に関する分科会に参加する。同分科会では、学生たちの演習論文に密接に関連する「多民族・多文化の職場づくり」「移住者にとって日本の職場にはどのような問題があるか」「それらをどう乗り越えるか」といったテーマに関する移住者を交えたディスカッションから、研究の足掛かりを掴むことを目的とする。

調査結果

フォーラムでは、以下の3つのテーマで第一線の実務家、当事者の講演から、今後の演習論文作成に関わる貴重な学びを得ることができた。

1) ジャーナリスト安田浩一氏「差別の現場を取材して～地域を壊す在日クルド人ヘイト」。近年状況が顕著に悪化している在日クルド人に対するヘイトの実態について、詳細な報告があった。具体的には、90年代に埼玉県南部の川口市や蕨市でクルド人が暮らすようになった経緯、クルド民族の歴史、トルコにおけるクルド民族を取り巻く状況、SNSのデマやヘイト、街宣ヘイトデモ、盗撮被害、政治家によるクルド人ヘイト等の状況について。戦前日本において外国人差別に起因した虐殺事件が発生しており、近年にも特定の民族集団を対象とする放火事件というヘイトクライムが起こっていることにも言及し、現状に対する強い危機感を共有された。

2) 弁護士 師岡康子氏「人種差別撤廃法の現段階と課題」上述のような状況に対して、実効性のある法整備の必要性に関する具体案が紹介された。

3) 分科会 技能実習・特定技能「労働者を取りまく環境と権利擁護の取り組みから」では、次のテーマに関する最新状況について学んだ。①育成就労制度と課題(外国人技能実習生権利ネットワーク共同代表)②特定技能制度の課題(RINKすべての外国人労働者とその家族の人権を守る関西ネットワーク)③外国人労働者にかかわる取り組み状況(交通ユニオン)④カンボジアコミュニティからの相談状況とその背景事情(ベトナム／カンボジア労働・生活ホットライン クメール語通訳担当)⑤ベトナム人技能実習生グエットさんの死体遺棄事件裁判について(アジアに生きる会・ふくおか)